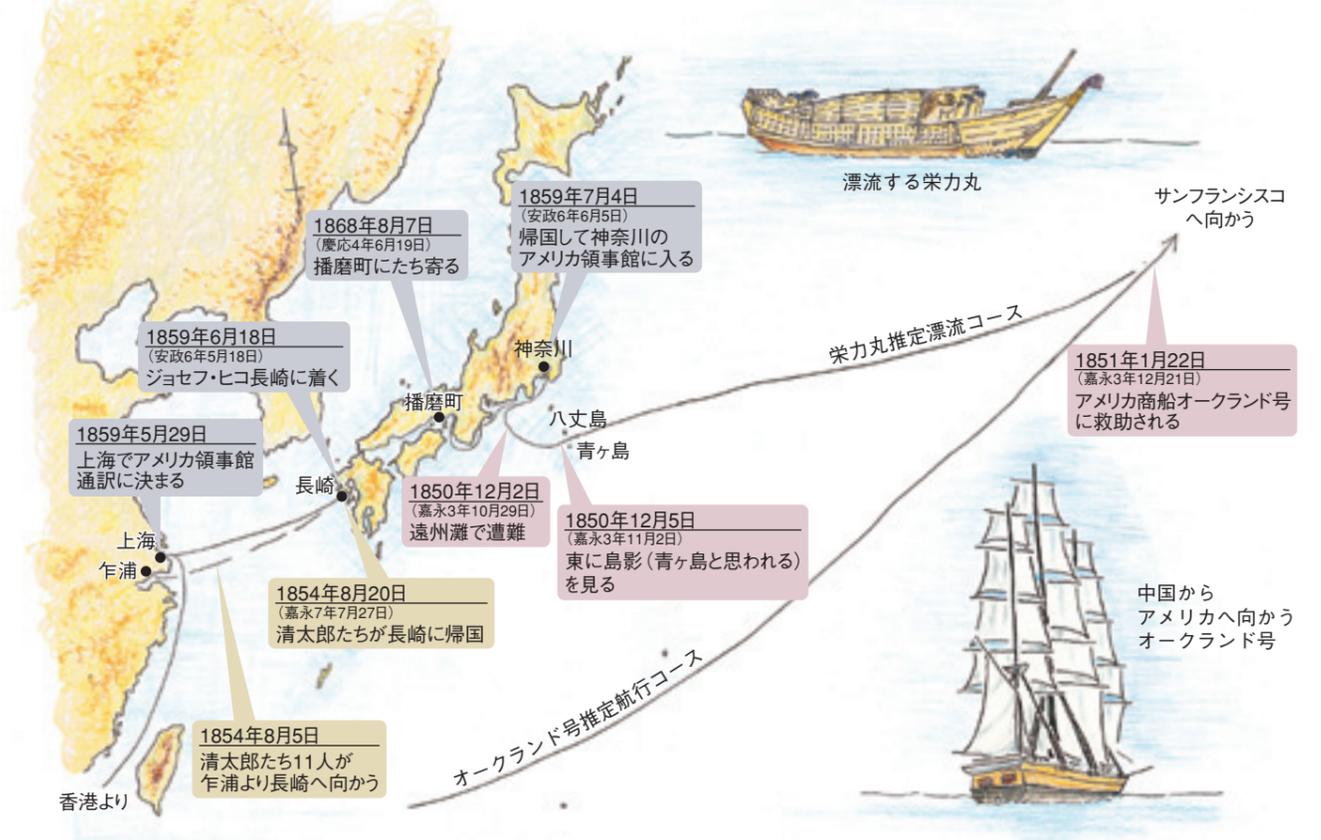


ジョセフ・ヒコ アメリカ市民権取得150周年記念特別展

『ジョセフ・ヒコ — Joseph Heco —』

播磨町郷土資料館特別展 ▶問い合わせ 郷土資料館 ☎079(435)5000



通訳として日本へ戻った再び、領事館の会う機会を得ます。会つ機会を得ます。会つ機会を得ます。会つ機会を得ます。

1859年7月4日、今の横浜市にある本覚寺がアメリカ領事館となり、ヒコもここで働きます。しかし、その後、ヒコ自身は攘夷の嵐により、身の危険を感じたり、自分の立場に葛藤があったり、貿易の誘いがあつたりする中で、直後の1860年2月の末までには領事館をやめることになりました。今一度、アメリカとの貿易を求めて、アメリカに渡り、南北戦争の中の1862年3月12日にリンカーンと

本での将来の活躍を願って1858年にアメリカの市民権を取得します。今年は、この年から150年目にあたります。さらに、準備で中国に来たとき、ちょうどハリスが再び日本へ向かうときであつて、アメリカの領事館通訳となり、日本へは同行で帰ることになります。特別展では、日本人が写つた最古といわれる6人の栄力丸乗組員の写真を複写で展示します。

【Ⅲ】日本にて

ヒコは、再び領事館をやめ、横浜で貿易商を始めます。これとともに、1864年、日本で最初の一般配布で定期発行の『海外新聞』が発行されます。その編集方針に「童子にも読まん」(子どもにも読んでほしい)と、誰もが読める新聞をと考えています。これは、今日にも通じていることであり、このような姿勢が高く評価され、日本初の、すぐれたジャーナリストとも言われています。

ヒコはその後、長崎へと移り住みますが、1868年に古宮村に立ち寄っています。また、1871年には、横文字の墓の除幕を行っています。

その後の1872年大蔵省に出仕することになり、長崎から東京へ住まいを替えます。1875年からは神戸で、北風家のお茶の貿易を担当しています。また蒸気機関による精米所を設立、その応用で神戸に電灯を初めて灯したり、能福寺のいわれを英文で書いていたりして、文明開化の一翼を担っていました。1888年2月4日に東京根岸に移り、病氣療養とともに、友人に大切にされながら晩年を過ごします。その中で、英文の自伝を書きます。東京本所横網町に移つた後、1897年12月12日に亡くなります。今一度、国籍を日

今年「新聞の父」ジョセフ・ヒコがアメリカの市民権を取得してから150周年になります。そこで、ジョセフ・ヒコの業績を再度確かめる機会をつくりました。特に注目できる資料として、ヒコが漂流した直後のアメリカでの写真(複写)を展示します。利発な目で、女の子と見間違ひそうに整った顔つきは、将来の活躍を予感させるものがあります。これを含め、日本人が写つた最古の写真といわれる栄力丸の漂流者6人の写真(複写)も展示します。

【Ⅰ】漂流

ヒコが栄力丸で漂流したのは、13歳の1850年12月2日(嘉永3年10月29日)のことです。ヒコは1837年に播磨町古宮で生まれます。その後、父親を4歳のとき病気で亡くし、母親の再婚で浜田(今の東本荘)に移ります。この母親のいっつけで、船に乗ることなく、寺子屋で勉強をしていきます。しかし、1850年夏に母親を亡くし、今後のあり方を考えたとき、船乗りの道を選びます。そこで、継父とともに船に乗り江戸へ向かいますが、途中、新造船の栄力丸に乗り換えて江戸へ向かいます。無事江戸に行った

帰り、静岡県の沖、遠州灘で遭難し、漂流をします。漂流52日目の1851年1月22日(嘉永3年12月21日)に、アメリカの船に助けられ、サンフランシスコへ向かいます。展示は、当時の船に関する資料を集めました。

【Ⅱ】アメリカにて

サンフランシスコでは、様々な形で歓迎されます。また、写真に写され、イラストとなって新聞にも紹介されます。ちょうど日本との国交の機会を考えていたアメリカ政府は、栄力丸の乗組員17人を保護し、アメリカ艦隊での入国の機会を考えます。1年後の1852年、17人は、準備のためにサンフランシスコを後にして、中国へ向かいます。しかし、中国での準備に手筒取り、ヒコと亀蔵、次作はトーマスに誘われて再びアメリカに戻ります。他の乗組員もやがて、三つの道に分かれていきます。

アメリカに戻つたヒコは、サンダースとの出会いにより、しっかりとした教育を受け、キリスト教徒にもなり、ジョセフというクリスチャンネームをもらいます。また、帰国の機会がみつかること、日

本に戻したく願っていました。かなわず、外国人として東京青山の外国人墓地へ葬られます。『海外新聞』(複製)『漂流記』などを展示します。

【Ⅳ】絆

ジョセフ・ヒコとともに栄力丸乗組員の帰国後、互いに連絡をとっていた様子はなく、意外な感じがします。中国や長崎で分かれた後、心の奥深くのどこかに漂流のときの強い絆を感じながら、互いに一生を過ごしたと考えます。今回は、清太郎、喜代蔵、甚八、



▲室津での速鳥丸の進水式の様子

源次郎がつくつた速鳥丸、神護丸についての資料をお見せします。特に、速鳥丸の進水式の図をお借りすることができました。

【Ⅴ】資料

ヒコを含め17人の記録と年表、さらに関係本の展示を行います。

ジョセフ・ヒコ アメリカ市民権取得150周年記念特別展

『ジョセフ・ヒコ -Joseph Heco-』

- ▶期間 10月25日(土)~11月24日(祝)
- 休館日 10月27日(月)、11月4日(火)、10日(月)、17日(月)
- ▶開館時間 午前9時30分~午後5時
- ▶場所 郷土資料館

記念講演会 ジャーナリストからみた

ジョセフ・ヒコ

- ▶日時 11月16日(日) 午後1時30分~3時
- ▶場所 郷土資料館
- ▶講師 梶山 卓司氏 (神戸新聞社東播支社 支社長)
- ▶入場料 無料

- ▶問い合わせ 郷土資料館 ☎079(035)5000